

2023 年度 若手・女性研究者奨励金 レポート

研究課題	ベトナム人日本語学習者の多様なニーズに応じた日越 対照研究 —漢日語彙と漢越語彙の比較を中心に—
キーワード	①漢越語、②漢日語、③日本語教育

研究者の所属・氏名等

フリガナ 氏 名	チン シュウイン 陳 秀茵
配付時の所属先・職位等 (令和5年4月1日現在)	東洋大学 国際教育センター 講師
現在の所属先・職位等	東洋大学 国際教育センター 講師
プロフィール	2019年神戸大学大学院博士後期課程修了。ドイツのハンブル大学日本語教育アシスタント、神戸芸術大学大学院非常勤講師、青山学院大学非常勤講師、日本経済大学非常勤・常勤講師を経て、現職。専門は現代日本語文法、日本語学、日本語教育、対照言語学。

1. 研究の概要

本研究は、ベトナム語を母語とする日本語学習者に共通する漢字および漢語教育の重要性に焦点を当てている。具体的には、漢越語彙（漢字を用いたベトナム語）と漢日語彙（漢字を用いた日本語）の共通点と相違点を詳細に明らかにし、その結果を基に日本語教育現場での実践的な応用方法を提案することを目的としている。この研究を通じて、ベトナム語を母語とする日本語学習者が日本語を効果的に学習できるよう支援し、教育の質の向上を図ることを目指している。

2. 研究の動機、目的

現代のベトナム語では漢字を使わないが、発音には漢越音が残っており（王力, 1948）、日本語の音読みと多くの共通点がある。また、日本語の二字熟語とベトナム語の構造は似ており、意味や用法にも多くの共通点が見られる（岩月, 2005）。先行研究では、ベトナム語話者が持つ漢越語彙の知識が、漢日語彙の学習に役立つことが証明されている。

しかし、従来の研究は音の類似性に重点を置いており、意味や用法に関する日越漢語の比較研究は十分に進んでいない。意味や用法に関する研究としては、川本（1979・1980）が挙げられるが、これは日本語教育を直接目的としたものではなく、その結果を教育現場に適用するのは難しい。このため、教育現場では、ベトナム語を母語とする日本語学習者の漢字語彙教育が学生の自律学習に委ねられることが多く、体系的な指導が不足しているという課題がある（陳, 2020）。

本研究は、このような背景と課題を踏まえ、漢日語彙と漢越語彙の意味および用法の違いを明らかにし、日越漢語対照データベースを構築することを目的としている。このデータベースは日本語教育の現場で実際に活用できるように設計されている。さらに、本研究はデータベー

スの応用や結果分析にも重点を置いている。これにより、ベトナム語を母語とする日本語学習者が効果的に日本語を学習できるよう支援し、教育の質の向上を図ることを目指している。

3. 研究の結果

本研究では、漢日語彙と漢越語彙を『中国語と対応する漢語』（文化庁 1978）の分類法に基づいて四つのカテゴリに分類した。これらのカテゴリは以下の通りである。①N 語（Nothing, 日本語の漢語と同じ漢字語がベトナム語に存在しないもの）、②D 語（Different, 日本語とベトナム語で意味が著しく異なるもの）、③S 語（Same, 日本語とベトナム語で意味が同じか、非常に近いもの）、④O 語（Overlap, 日本語とベトナム語で意味が一部重なっているが、ズレがあるもの）。調査の結果について、これらのカテゴリの割合は約 3:2:2:3 であることが明らかになった。さらに、日本語能力試験出題基準に基づいて語彙レベルを検証したところ、N1 および N2 レベルの語彙には S 語と O 語が多く含まれており、初級レベル（N4、N3）の語彙には N 語と D 語が多いことが確認された。

この結果、初級学習者は異形語や異義語に頻繁に接するため、学習の負担が増加することが示唆された。この研究により、学習者の負担を軽減するための教育方法の改善が求められていることが明確になった。

4. 研究者としてのこれからの展望

本研究は『中国語と対応する漢語』の分類方法を採用することで、日中越の対照研究が一層発展することが期待される。この分類と定義は、ベトナム語に詳しくない日本語教師や教育関係者にも理解しやすく、教育現場での応用が容易であると考えられる。また、本研究で開発されたデータベースは広く公開することで、日越対照研究に対する関心を喚起し、さらに東アジア全体の言語学の発展にも貢献することが期待される。

今後は、このデータベースを利用した具体的な教育プログラムの開発や、ベトナム語を母語とする日本語学習者の多様な背景に対応した支援冊子の作成も視野に入れている。また、今回の調査結果を基に、より具体的な教育支援方法や効果的な活用法についての検討を進めていく予定である。

さらに、基礎研究として中国語、韓国語、広東語との対照研究も視野に入れ、東アジアの言語教育全体の改善に寄与することを目指している。このように、多様な言語背景を持つ学習者に対する教育支援の向上を目指し、研究を進めていきたいと考えている。

5. 支援者（寄付企業等や社会一般）等へのメッセージ

本研究は、日本私立学校振興・共済事業団の「2023 年度 若手・女性研究者奨励金」の助成を受けて実施されたものです。この助成金により、研究の遂行が可能となり、貴重なデータの収集や分析を行うことができました。特に、データベースの応用や結果分析に重点を置いた研究が進展したことに対し、深く感謝の意を表します。また、本助成金の支援により、本研究の成果を広く学術界に発信し、多くの研究者や教育者に貢献できることを心より感謝申し上げます。



参考文献

- 岩月純一（2005）「近代ベトナムにおける「漢字」の問題」（村田雄二郎・C. ラマール 編『漢字圏の近代ことばと国家』東京大学出版会）、pp. 131-147
- 王力（1948）「漢越語研究（漢越語研究）」《嶺南學報》9-1、pp. 1-96
- 川本邦衛（1979）『現代ベトナム語漢語・「漢字語」語彙集 1（文字と言語研究資料；4）』『特定研究「言語生活を充実発展させるための教育に関する基礎的研究」文字と言語班』、pp. 1-36
- 川本邦衛（1980）『現代ベトナム語漢語・「漢字語」語彙集 2（文字と言語研究資料；7）』『特定研究「言語生活を充実発展させるための教育に関する基礎的研究」文字と言語班』、pp. 37-57
- 陳秀茵（2020）「ベトナム人日本語学習者への漢字教育に関する研究の現状と課題ー今後の研究の方向性と可能性ー」『東アジア日本学研究』（3）、pp. 75-84